楽たま通信

平成29年度
No.31

良城小
2017/11/15
増野

道徳の授業を楽しんでいますか

先週金曜日に、周南市で行われた道徳教育の全国大会２日に目に参加しました。

来年度から「特別の教科」として新たに位置づけられ、学習状況や道徳性にかかる成長の様子」を評価し、要録や通知表に評価するようになります。先生方の中にも不安を感じられている方もいらっしゃるかと思います。

しかし、研修に参加してみて、今回の改定は、一部に取り上げられているような教科化によるマイナス報道（特定思想の押しつけ、心の問題は数値化できない等）はそぐわないと感じました。

道徳教育の歴史の中で大きなターニングポイントを迎えていると言われる今回の改定の真の意義を正しく理解し、道徳の授業をさらに充実させていきましょう。

実践報告と文科省調査官の講演の中で、印象に残ったことをいくつかお知らせします。来年度の教科化までの間に、もう少し研鑽を積んでいきましょう。

〇指導要領の改定において、他の教科に先駆けて道徳が先行実施されるのは、いじめ問題の改善に道徳教育の充実が期待されているという緊急性を、教員として真摯に受け止めたい。

〇新学習指導要領の改定の趣旨の一つである「どのように学ぶか･主体的･対話的で深い学び」が道徳科においても求められている。

〇道徳科の趣旨は、新学習指導要領の趣旨の中心であると受け止めたい。

〇道徳科の「主体的･対話的で深い学び」は、目標の中央部の文言（下記〜部）に典型的に示されている。

> よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的･多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

〇主体的な学びとは

問題意識を持って授業に臨む、自分自身との関わりで考える、授業で自分はどのように変わったのかと自己を振り返る 等

〇対話的な学びとは

友達、先生、地域の人々、先人と対話することで、自分の考えをより確かなものにしていく（自分だけの独りよがりな考えではなく、みんなにも理解され受け止められるような納得解を求めていく）、学級経営の充実が必要

〇道徳科授業で大切なこと（質の高い学習）

・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
・問題解決的な学習
・道徳的行為に関する体験的な学習※これらは一例

〇道徳科授業で避けたいこと

・読み物道徳（心情理解のみに終始）
・合意形成を図る道徳
・押しつけ道徳
・活動あって学びなしの道徳

〇道徳科の評価は、これまでの行動の記録や総合所見に表記していた教育活動全般で見られた道徳的な行為の評価とは異なる。

〇道徳科の授業の学習状況や道徳性にかかる成長の様子を評価する。

〇学習状況で重視するところは、

・物事を多面的･多角的に考えているか。
・道徳的価値を自分との関わりの中で深めているか。

〇道徳科の評価は、「認め、励ます個人内評価」である

〇教科書を使用することになるが、年間を通して教科書を使用しながらも、その学校や地域、郷土の求められている内容項目を明らかにし、郷土教材等を差し替えていく。学校独自の道徳教育を展開していく。

〇道徳の授業を先生方に楽しんでもらいたい。先生が楽しんでいる姿は、間違いなく子どもに伝わり信頼を得る。そして、信頼している先生に認められることは子どもの一番の「評価」である。

※「文科省道徳教育アーカイブ」に、考え・議論する道徳授業の映像資料があります。是非参考にして下さい。